

10月24日 豊川市財賀町の財賀寺境内でCOP10 記念自然観察会が行われました。(C班担当)

財賀寺は豊川市の北西部、観音山の山裾にある古刹です。観察会はCOP10 記念自然観察会として実施した。会場は仁王門より急な階段の参道を登り、本堂までの森の中で下記のような観察を行い、文殊堂内で住職さんの話を伺い、文殊菩薩と庭を拝観した。学問や芸妓の上達を願い、文殊菩薩の知恵にあやかろうと、従来来になかった事項を試みた。急階段での転倒事故等もなく無事終了できたことは参加会員の協力が有ったからこそと感謝いたします。一般参加者13名、会員19名の、こじんまりした観察会でしたが充実した半日でした。

1. 観察概要

- ①財賀寺について(財賀寺の歴史、仁王門、金剛力士像について)
- ②ムササビの観察(ムササビとはどのような動物、ムササビが棲息していることを調べるには)
- ③参道周辺の森の観察(極相林であるシイ林と植林された林の違い、自然林はなぜ大切なのか)
- ④落ち葉の下や、落ち葉の中に生息する動物探し
- ⑤財賀寺周辺の地質、風水より考察した寺の位置等について
- ⑥本堂床下のアリジゴク(ウスバカゲロウの幼虫)の観察
- ⑦文殊菩薩の参拝
- ⑧キツネの糞とセンチコガネの観察

2. 一般参加者のアンケート結果(回答者数11人)

- ① 性別は・・・男性(6人) 女性(5人)
- ② 年代は全員60歳以上(11人)
- ③ 住所は・・・豊川市(1人) 豊橋市(9人) 知立市(1人)
- ④ 観察会を何で知りましか・・・会からの案内(9人) チラシ(2人)
- ⑤ 観察会の参加回数・・・2回目以上(11人)

今回の特徴は、会からの案内で出席された常連のお年寄りが多かったことでした。

3. 会員参加者

天野、池田、梶野、神戸、坂口、佐野、柴田、鈴木(千)、高橋、高林(康)、滝崎、中島(国)、中島(芳)、中西(普)、夏目、林、原田、星野(京)、間瀬(19名)

観 察 雑 記

1. 財賀寺の仁王門と金剛力士像

財賀寺は行基創設、源頼朝再建の寺と伝えられるが実際のところ不詳です。

金剛力士像(仁王さん)は作風、技法等より平安時代後期の作と推測されると言われています。ヒノキの寄木造りで、前後左右の四つの材を接ぎ合わせ、これに両腕等を別材で接いでいます。東大寺南大門金剛力士像に次ぐ大きさと、言われています。昭和55年6月に国指定の重要文化財となりました。

金剛力士像を安置するため室町時代に建立されたと推定されます。老朽化したため平

成8年10月から2年余をかけて解体修理が行われました。平成10年10月10日、修復完了を記念し、当時の横綱貴乃花の土俵入りが奉納され、その時の土俵が作られた痕跡を見ることができます。



2. ムササビの観察

ムササビは哺乳類の一種でムササビ属に属する哺乳類の総称である。前脚と後脚の間に飛膜と呼ばれる膜があり、飛膜を広げてグライダーのように滑空し、樹から樹へと飛び移ることができます。長い尾は滑空時に舵の役割を果たします。

ムササビは日本固有種で、本州、四国、九州に生息し、夜行性で、主に樹上で生活し、カエデ、スギ、サクラ、シイ、コナラなどの葉、冬芽、種子、果実、花等を食する。地上で採食することはない。

ムササビの棲息を確認するには①食痕が落下していないか。②巣の素材とする杉等の皮剥ぎが見られるか。③巣穴の直下等に新しい糞が落下していないか。等を調べることで棲息していることが確認できます。



3. 森の観察.

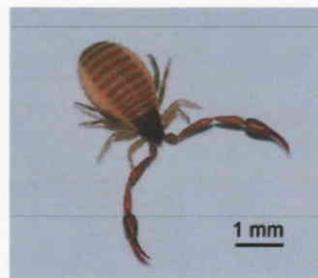
財賀寺境内は、シイ、ヤマモモ等の大木が茂り、ヒメハルゼミの自生地として豊川市の天然記念物に指定されています。特に仁王門から本堂までの参道には大径木を観察することができます。参道を登りながら左右の森を観察すると、右側(東)は参道から少し離れると手入れのされていない人工林ですが、左側(西)はシイの森でムササビの生息には適しています。このような広葉樹の森は種類の生き物が複雑に絡み合う今の流行語である生物多様性の森であるといえます。同じシイの葉でも日陰の葉は大きくて薄い、陽がよく当たる樹冠の葉は、小さくて厚くなっています。日光を効率的に取り入れ光合成をおこなう植物の不思議を観察できました。

4. 落ち葉の下の生き物を探そう

足元の土壌生物は百万種を超え、動物に限定しても30万種も生息するといわれています。今観察会では、落ち葉下や、落ち葉の中に生息する動物を探した。見られた動物はカニムシ、アリ、サシガメ、ムカデ、ヤスデ、ムカデ、トビムシ等が見られた。(ただし個々の種類までは同定せず仲間とした。)

カニムシについて

四対の歩脚と一对の鉤状の触肢を持ち、体は楕円形で、頭胸部と腹部の間はくびれない。全身の感じは尻尾の無いサソリといった感じです。特徴は大きく発達した鉤状の触肢で、先端付近に感覚毛が生えている。生息場所は主として土中、トビムシ等を捕食する肉食動物です。



カニムシ (インターネットより取込)

5. 財賀寺周辺の地形・地質

財賀寺周辺の地質は中央構造線の内帯に位置し領家帯と呼ばれている。財賀寺は三方を山に囲まれた、南側が開けた山裾に建立されている。このことは風水で冬季の北風を防ぎ、夏季の南風を取り込む暮らしやすい場所と言える。また寺院は戦略的に砦の役割も果たす場所に建立されたとも言えそうである。

6. アリジゴク (ウスバカゲロウの幼虫) の観察

「蟻地獄」とはなんとも恐ろしい名前である。本堂の床下の土に、小さなすりばち型の小さな窪みが見られます。このすりばちの底に棲んでいる昆虫をアリジゴクと称しています。この昆虫は、すりばち型の穴の中に足を滑らせ落ちてくる獲物を待っています。アリ等が落ちてくると、大きな顎で捕まえ、消化液を注入し、体組織を分解した後、口器より吸い取る。このように、アリジゴクは何時落ちてくるか分からない獲物をじっと待たなければならないため、成熟するのに2~3年もの間幼虫生活を送らなければなりません。幼虫は蛹になるとき土中に丸い蛹を作り、羽化後は水だけ摂取して生活する。

(注) アリジゴクと言われるものは、ウスバカゲロウ科の中の一部の幼虫をこのように呼んでいる。)



7. 文殊菩薩の拝観

財賀寺の文殊菩薩は、三河の国司・大江定基の念持仏で、愛妾力寿菩提のために建てた力寿山舌根寺の寺本尊でしたが、廃寺となりここに運ばれてきました。文殊菩薩は、釈迦如来の弟子の一人で知恵をつかさどる菩薩と言われています。縁日には、文殊菩薩の知恵にあやかり学業向上技芸上達を願う人達でにぎわいます。

8. 狐の糞とセンチコガネの観察

庫裏への帰路の途中で狐の糞を観察することができた。狐の糞の特徴として、極細のサツマイモを2個連ねたような感じである。この糞を分解（食する）センチコガネが観察できた。



2個の糞のうちの1例



センチコガネ

☆もう1個の糞は少し離れていた。

観察会の風景写真



観察会の開始前の準備運動



仁王門と金剛力士像の説明



ムササビの観察について



森の観察について



落ち葉の下の動物を探す



観察 地形・地質の観察



アリジゴク (ウスバカゲロウ) の観察



文殊堂の拝観 (住職さんのお話)